

NIIと大学図書館との連携・協力について ～NIIの学術コンテンツ事業の動向～

平成28年度第24回静岡県図書館大会

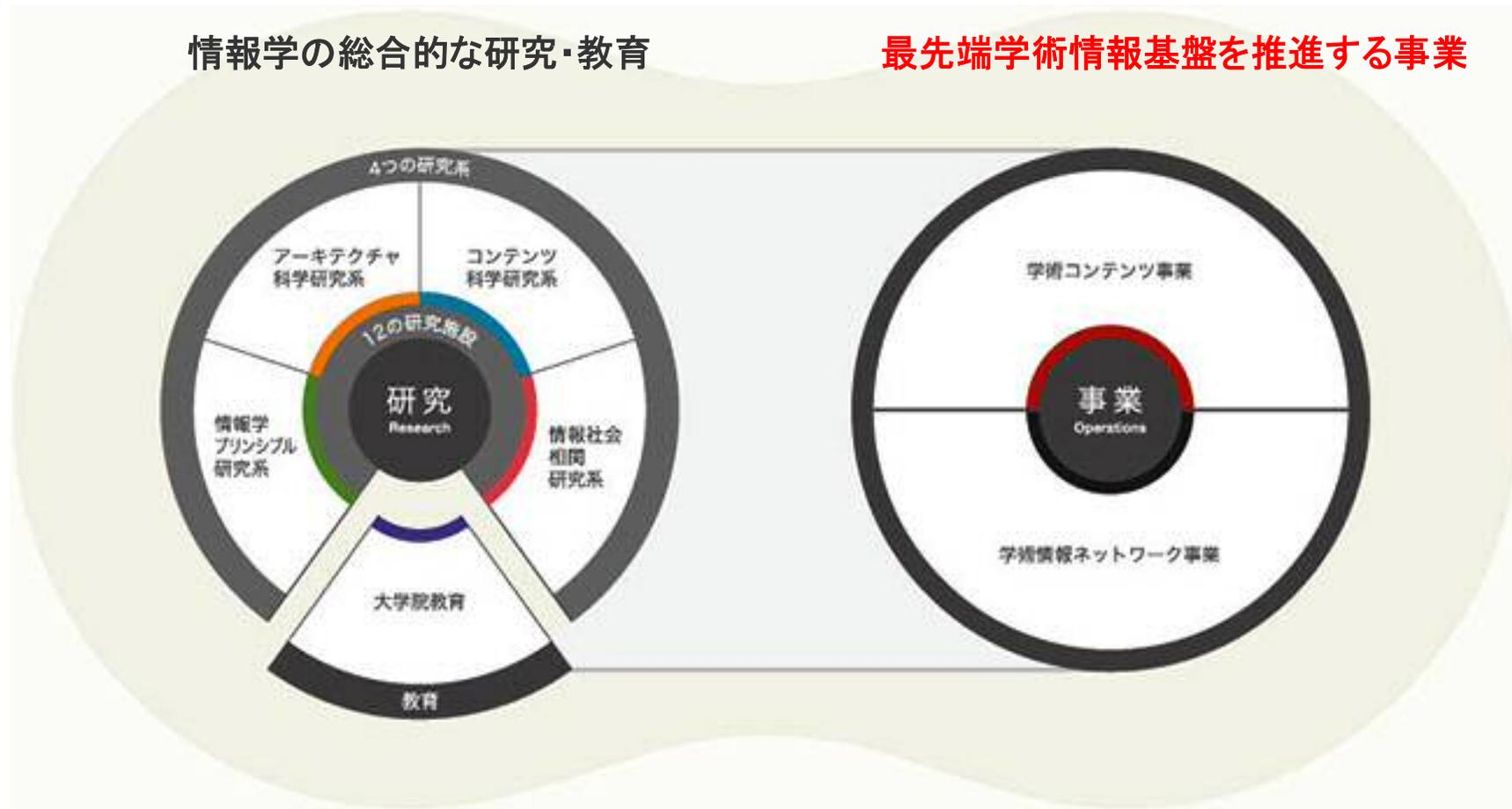
平成28年11月7日(月) 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

国立情報学研究所 学術基盤推進部
学術コンテンツ課 吉田 幸苗
yoshida@nii.ac.jp

- 国立情報学研究所(NII)の概要
- 学術コンテンツ事業の現状と課題
- 学術コンテンツ基盤の今後と、大学図書館との連携・協力

NIIの2つのミッション

「研究と事業を車の両輪として情報学による未来価値を創成」



SINET5: NIIが提供する学術情報基盤の新展開

大学などの学術研究・教育活動の連携・推進



学術情報の公開・共有

- ◆ 学術情報流通と
オープンアクセスの推進
- ◆ 大学の機関リポジトリ拡充
の推進



学術コンテンツ基盤

大学間連携支援

- ◆ 仕様統一したシステムによる
大学間連携、各種資源の
相互利用の促進



学術認証
フェデレーション

HPCI認証



無線LAN
ローミング

クラウド活用支援

- ◆ クラウド利活用促進による
大幅なIT経費削減・
研究教育環境の高度化



クラウド支援サービス

SINET直結クラウド

セキュリティ強化

- ◆ 暗号技術活用による
情報の保護、安全な認証
- ◆ ネットワーク機能連携による
サイバーアタック対策



電子証明書



VPN

学術情報ネットワークの構築・運用

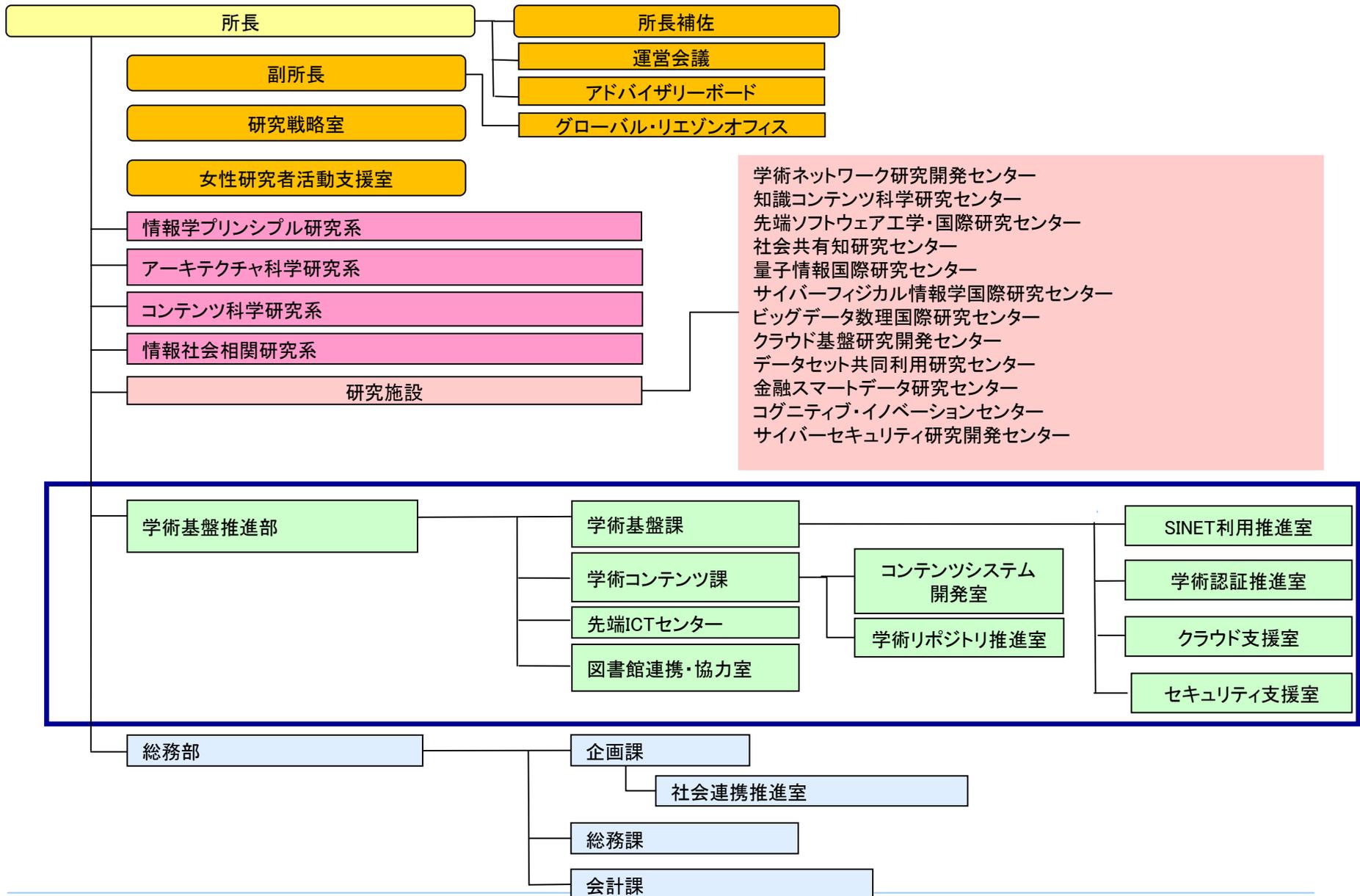
- ◆ 国内回線 全国100Gbps化
- ◆ 海外 (米国・欧州・アジア)との高速接続
- ◆ 多様化するニーズに応えるSDNなどの 最新ネットワーク技術の導入

超高速・高機能回線



アクセス回線共同調達

NII組織図(平成28年4月～)



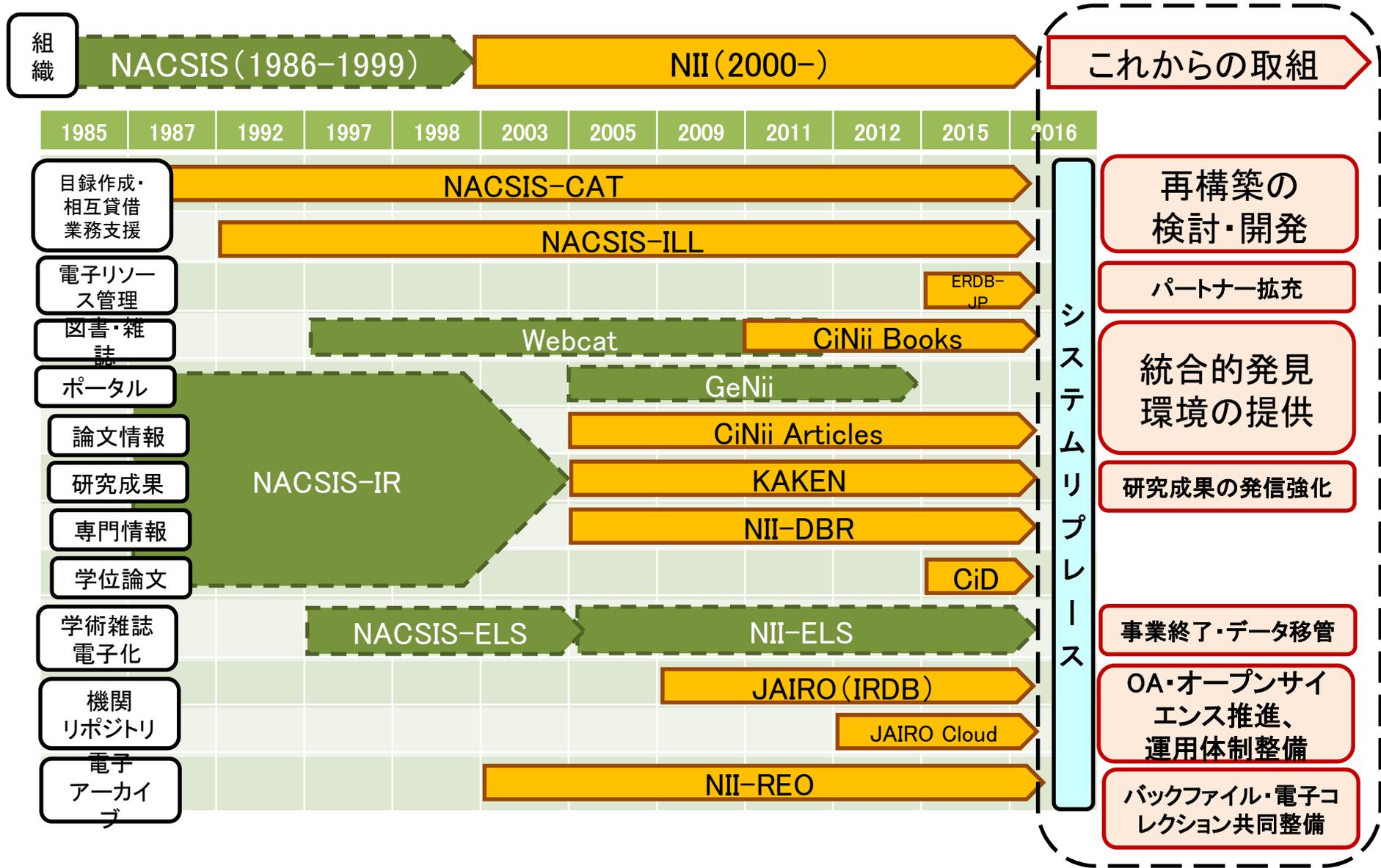
組織の沿革

年月	事項
昭和51(1976)年5月	東京大学情報図書館学研究センター発足
昭和58(1983)年4月	東京大学文献情報センター設置 (情報図書館学研究センターを改組)
昭和61(1986)年4月	学術情報センター(NACSIS)設置
平成12(2000)年4月	国立情報学研究所(NII)設置 (学術情報センターの廃止・転換)
平成16(2004)年4月	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所設置

学術コンテンツ事業の沿革①

年 月	事 項
昭和60年(1985)4月	目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)提供開始
昭和61年(1986)4月	教育研修事業(目録システム講習会等)開始
昭和62年(1987)4月	NACSIS-IR(データベースサービス)提供開始
平成4年(1992)4月	NACSIS-ILLシステム提供開始
平成9年(1997)4月	NACSIS-ELS(電子図書館サービス)提供開始
平成10年(1998)4月	Webcat(総合目録データベースWWW検索サービス)提供開始
平成13年(2003)	国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)開始、NII-REO(電子ジャーナルリポジトリ)・研究紀要ポータル提供開始
平成17年(2005)4月	NII学術コンテンツ・ポータルGeNii提供開始(CiNii, KAKEN, NII-DBR)
平成21年(2009)4月	JAIRO(学術機関リポジトリポータル)提供開始
平成22年(2010)10月	国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所との間における連携・協力の推進に関する協定締結
平成23年(2011)4月	大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)発足
平成23年(2011)11月	CiNii Books提供開始
平成24年(2012)4月	JAIRO Cloud(共用リポジトリサービス)提供開始
平成27年(2015)6月	CiNii Dissertations試験公開開始(10月正式公開)

学術コンテンツ事業の沿革②

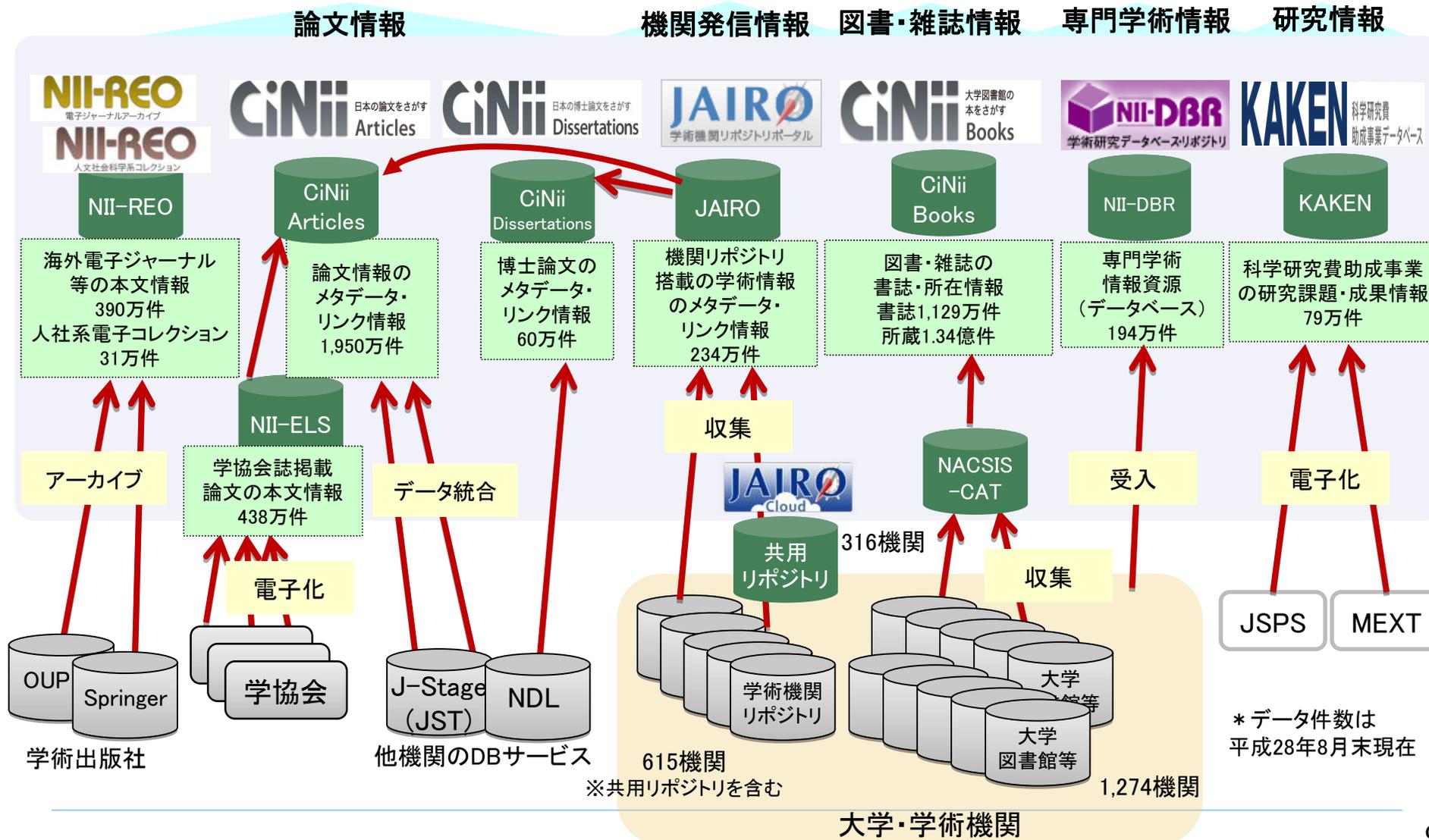


学術コンテンツ事業の現状と課題

- 目録所在情報サービス(NACISIS-CAT/ILL)
- NII学術情報ナビゲータ[サイニイ](CiNii)
- 学術機関リポジトリ構築連携支援事業(JAIRO/JAIRO Cloud)
- 科学研究費助成事業データベース(KAKEN)
- 国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)
- 教育研修事業

学術コンテンツ事業の現状

学術情報センター以来、30年以上に亘って、大学図書館等と連携しながら、多様な学術コンテンツを確保し、整備し、提供する事業を展開



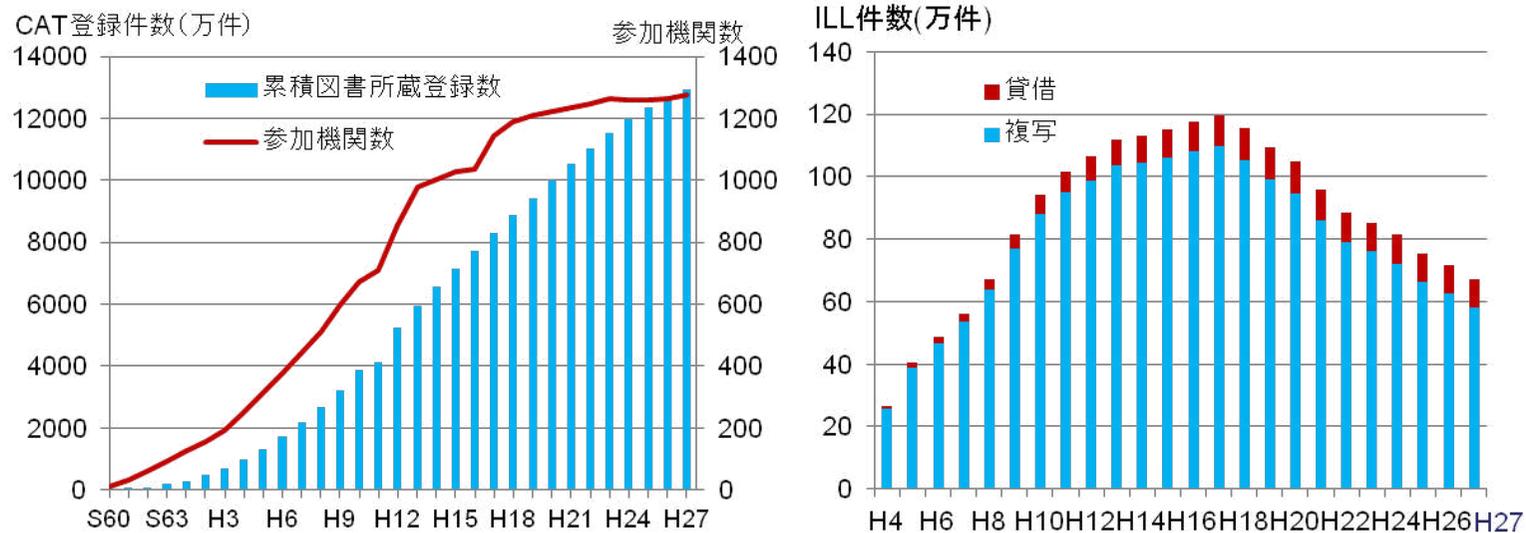
* データ件数は平成28年8月末現在

□ NACISIS-CAT

- 国内の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌情報を共同構築
- オンライン共同分担入力方式による目録システム
- 参加機関: 1,274機関
- 所蔵登録データ: 図書: 1億2,938万件(2万件増/1日) 雑誌: 467万件
- 同時接続端末(ユーザ数): 5,000台

□ NACISIS-ILL

- 目録システムで構築された総合目録データベースを活用した相互利用システム
- 参加機関: 1,113機関
- 複写: 約58万件, 貸借: 9万件, 海外ILL(OCLC, KERIS)



紙と電子の学術情報をシームレスに管理できる環境構築が課題

□ NACISIS-CAT2020

- 目録所在情報サービスの将来計画は重要な課題であり、検討を加速させるためにも、2020年(H32)には現在のような枠組みでの目録システムは終了していることを想定して今後の目録所在情報サービスの在り方を検討(平成26年7月8日開催第8回連携・協力推進会議議事要旨より)
- 課題の解決(電子資料・書誌調整・運営・データ交換)
- コストを削減(大学・NIIともに)
- 連携・協力推進会議「これからの学術情報システム構築検討委員会」を検討の場とする

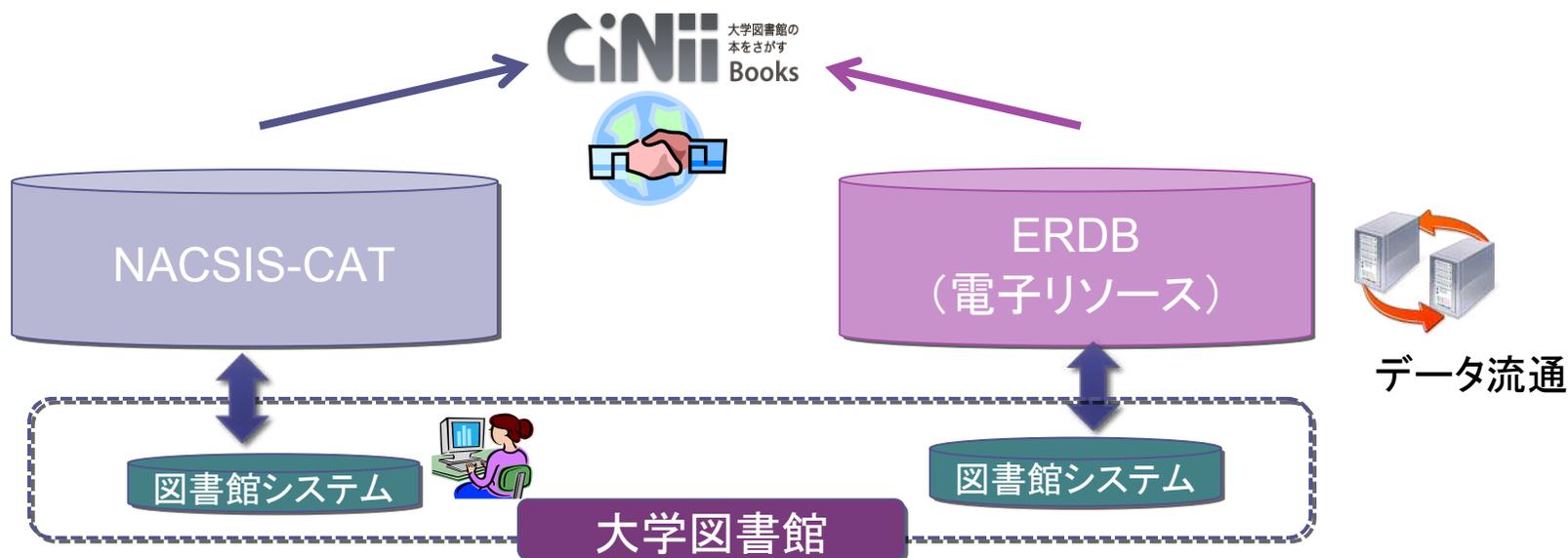
ERDB-JP (Electronic Resources Database-JAPAN)

□ERDB-JPの運用開始(平成27年4月～)

- 日本で刊行された電子リソースのナレッジベースを、大学図書館・出版社等と共同で構築・運用
- 従来の総合目録データベースと併せて、電子・紙媒体の学術情報への迅速かつ的確なナビゲートを実現し、利用者の学術情報へのアクセシビリティ向上を図る

□実施体制

- パートナーとしてデータ作成機関を募集中(随時)
- 当面、大学, 短期大学, 高等専門学校, 大学共同利用機関, 文部科学省・文化庁の施設等機関を対象(近々対象拡大予定)
- 国立情報学研究所、JUSTICE事務局、参加館(40館) (平成28年8月末現在)



CiNii 学術情報ナビゲータ

CiNii Articles (平成17年～)

- 日本の学術論文を中心とした論文情報を提供するサービス
- 膨大な論文情報の中から簡単に目的の論文を検索、学協会誌や研究紀要の論文本文の閲覧やリンクにより他サイトの本文も参照可能
- 主な収録データベース: 学協会刊行物(国立情報学研究所)、雑誌記事索引データベース(国立国会図書館)、J-STAGE(科学技術振興機構)、機関リポジトリ(各大学等)

CiNii Books (平成23年～)

- 日本の大学図書館等が所蔵する本(図書・雑誌)の情報を検索

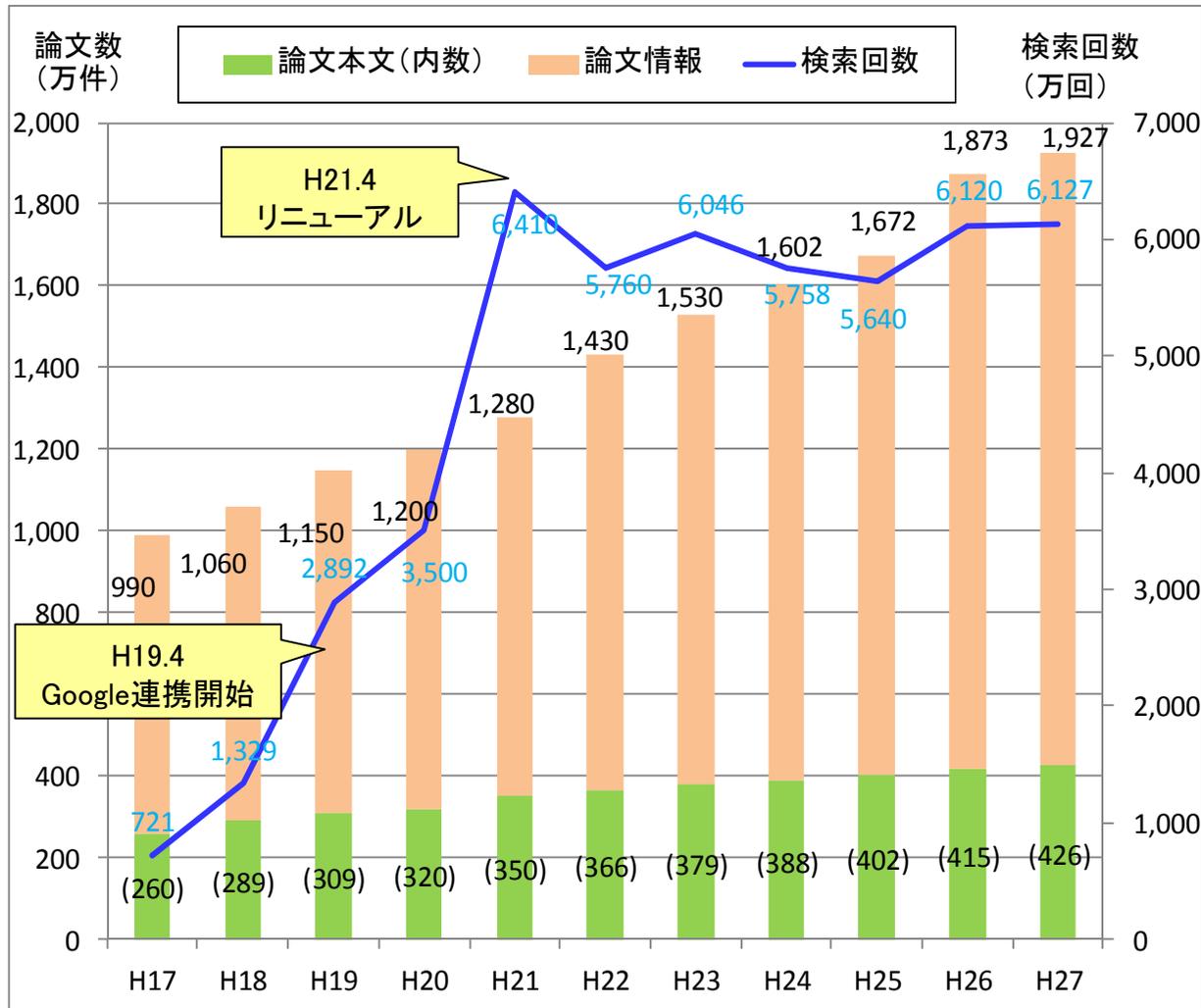
CiNii Dissertations (平成27年～)

- CiNii に博士論文検索のメニューを追加
- オンライン公開義務化への対応
- タイトル、著者名、学位授与大学名、取得学位名等で検索可
- 本文へのリンクあり



CiNii Articlesの現況

収録件数と検索回数



収録件数

- 論文情報 **1,927万論文**
うち、本文あり(NII-ELS)
- 444学協会 1,465誌 約385万論文
- 829大学等 3,503誌 約 41万論文
(平成28年3月末時点)

利用状況

検索: 月間約 **511万件**以上
 本文ダウンロード: 月間約 297万件以上
 (平成27年度平均値)

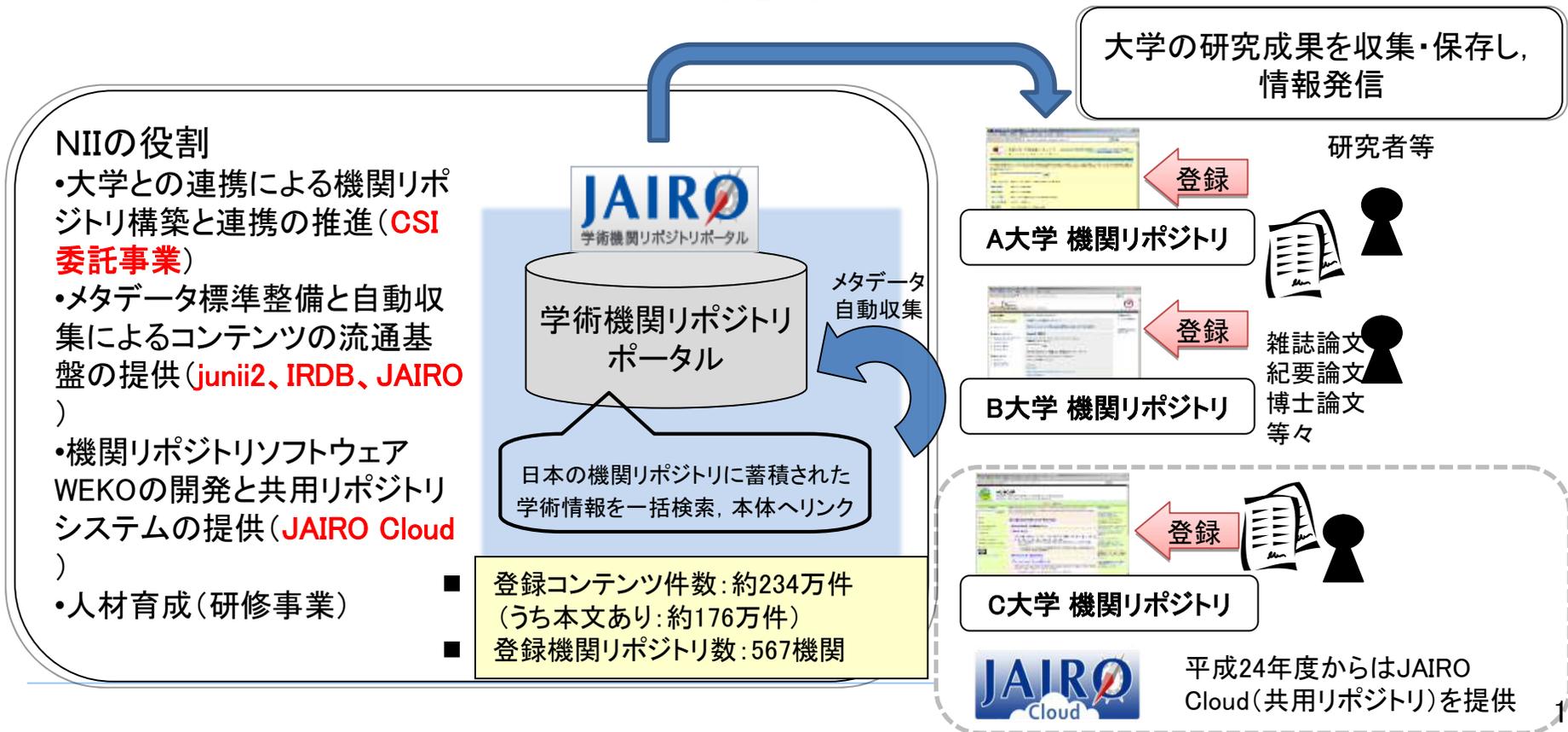
登録状況

- 定額制契約機関数 1,037機関(うち海外88)
- 個人登録者数 15,274名
(平成27年度集計)

- NII-ELSの事業終了(平成28年度末)
 - 本文電子化・機関別定額制は終了
 - ELSのコンテンツはJ-SATGE、機関リポジトリ等へ移行
- CiNii Articlesは継続
 - 移行後のコンテンツの検索・本文へのリンクは引き続きサポート
 - 移行されないコンテンツは、オープンアクセスで継続公開

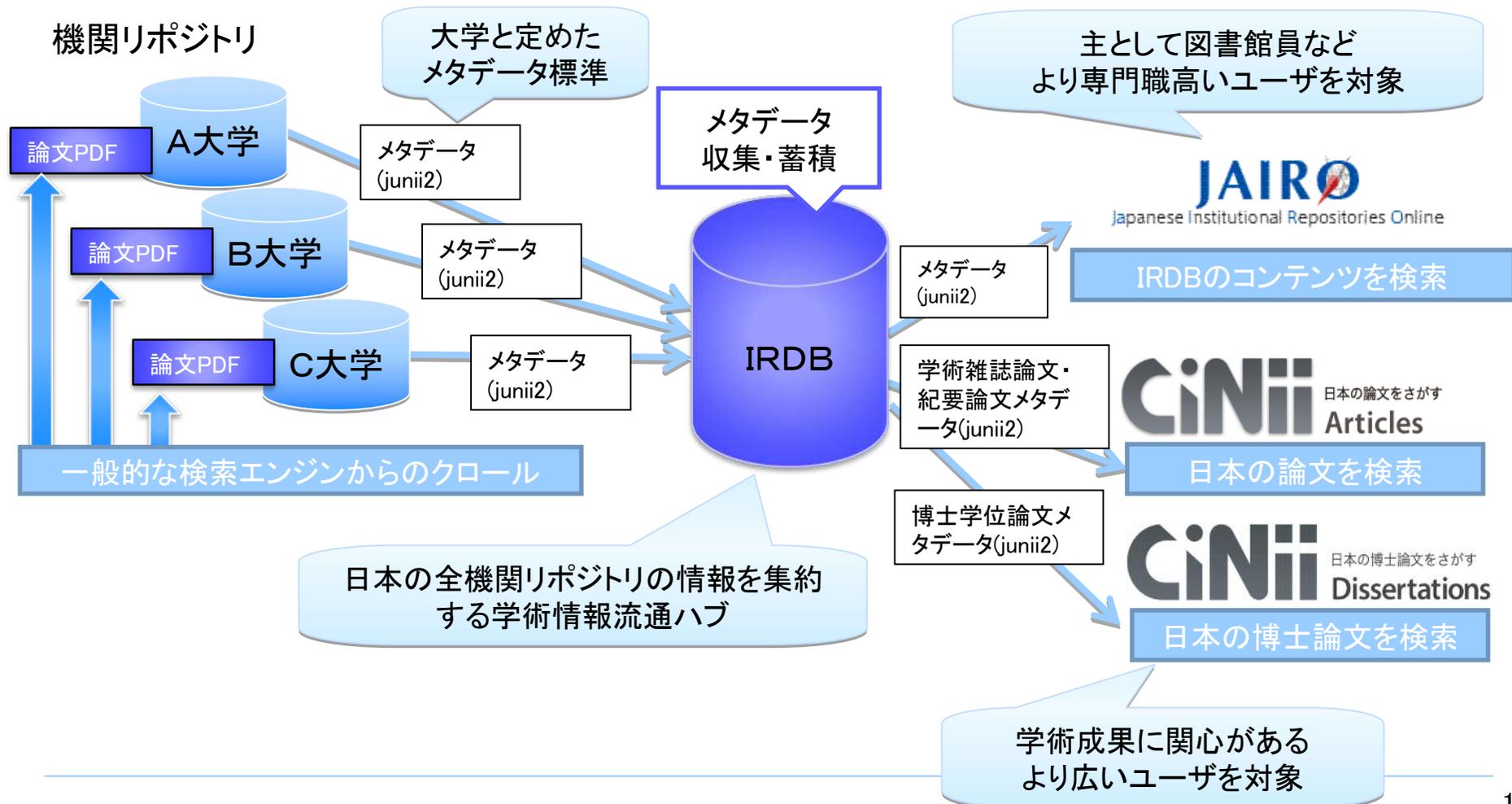
学術機関リポジトリ構築連携支援事業

- 機関リポジトリ (Institutional Repository) は、大学及び研究機関で生産された電子的な知的生産物を保存し、原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫
 - 大学の研究教育成果の積極的な情報発信
 - 社会に対する大学の研究教育活動の説明責任の保証
 - 大学で生み出された知的生産物の長期保存
 - 商業出版社が独占する現行の学術出版システムに対する代替システム
- 国立情報学研究所では、平成17年度から大学等の機関リポジトリの構築と連携を支援する事業を展開し、機関リポジトリは着実に増加。
- 平成24年度からはJAIRO Cloud (共用リポジトリ) を運用。



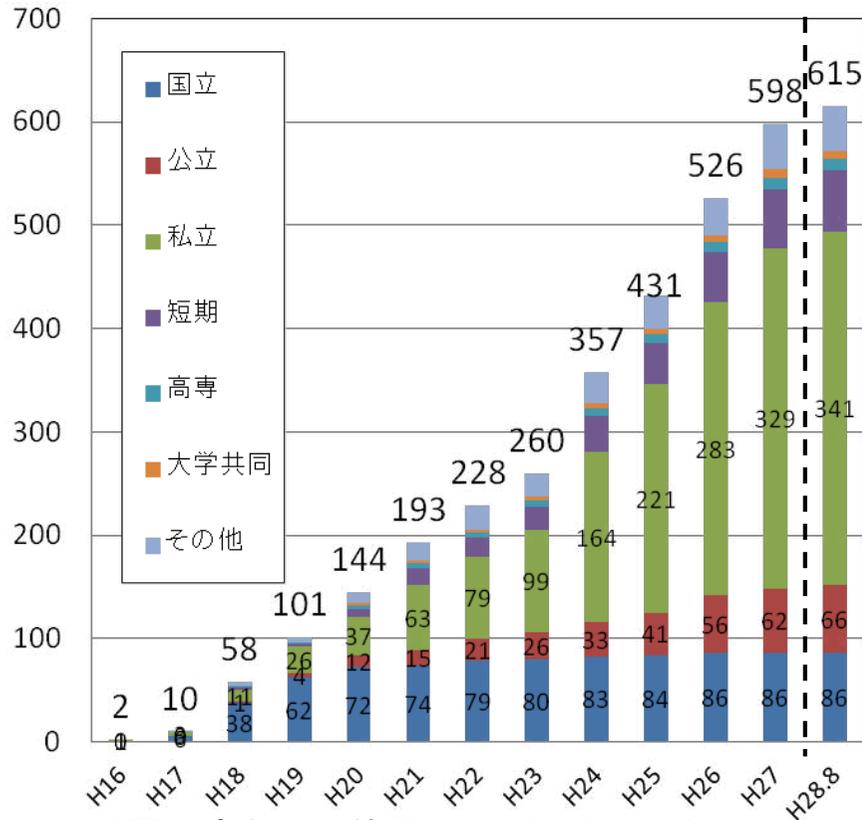
機関リポジトリコンテンツの流通基盤

機関リポジトリコンテンツの流通・可視性の向上のために、
メタデータハブ・検索エンジン等の基盤機能を提供



機関リポジトリの構築状況

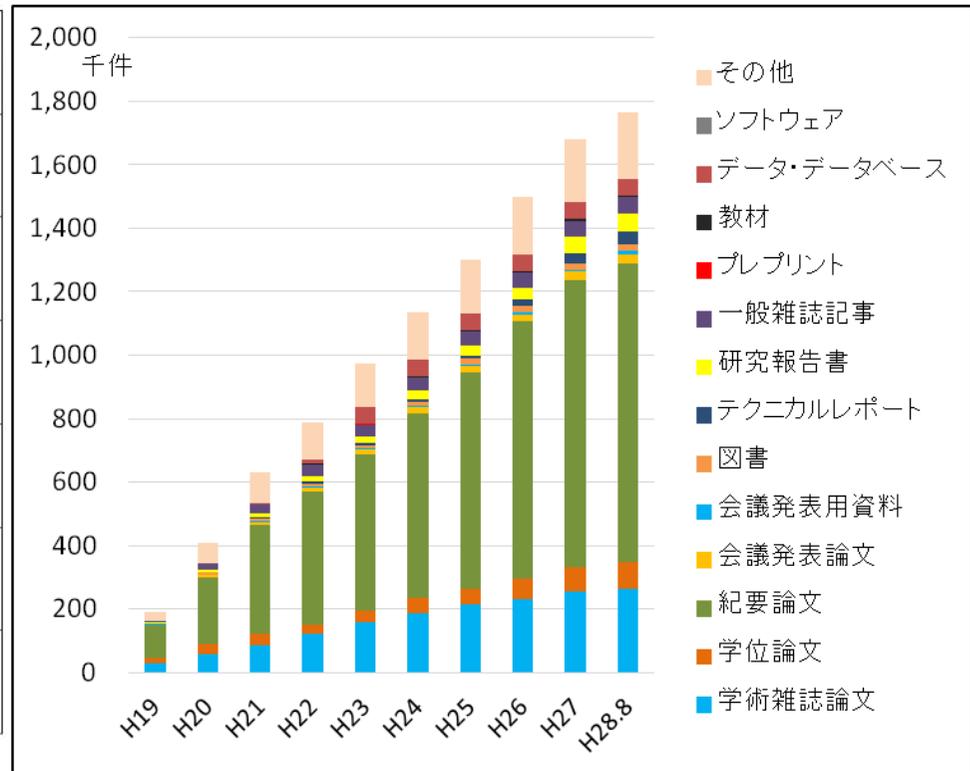
全国の構築機関数の推移



機関リポジトリ構築数 (平成28年8月末時点)

国立大学	86
公立大学	66
私立大学	341
その他	122
合計	615

JAIRO登録データ数(本文あり)の推移



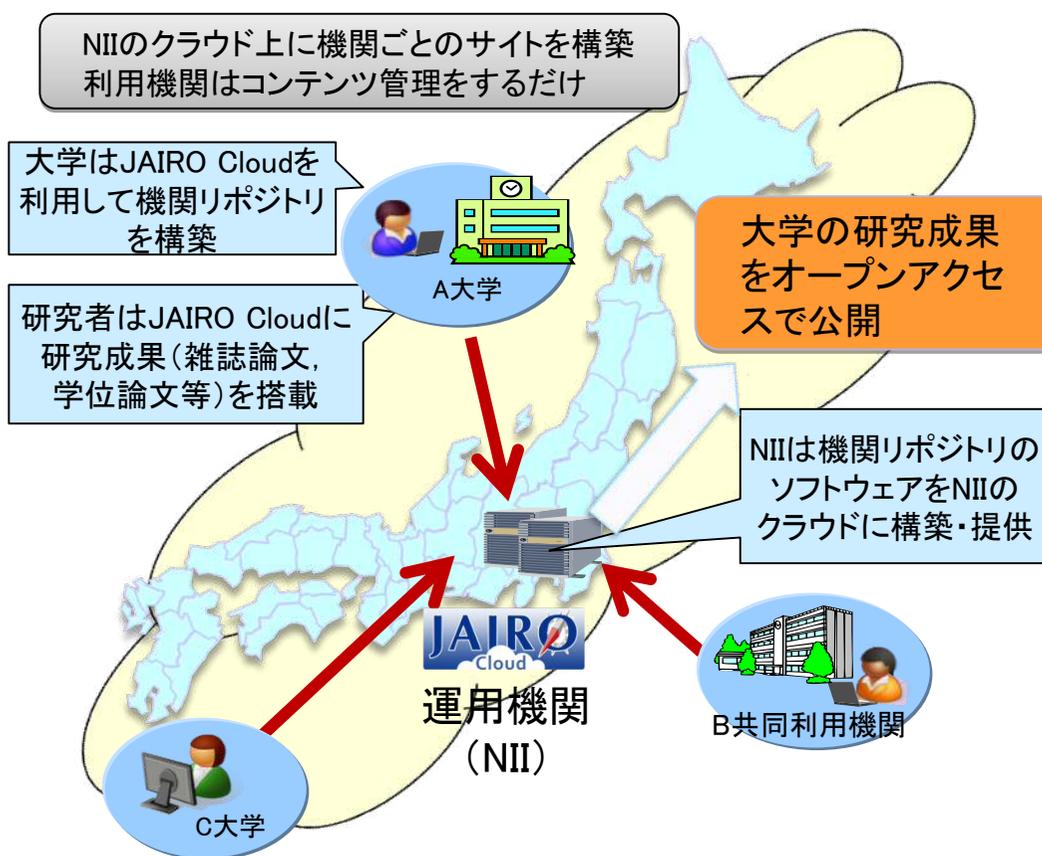
収録コンテンツ数 (本文あり) (平成28年8月末時点)

学術雑誌論文	約26万件
学位論文	約8.6万件
紀要論文	約93万件
その他	約48万件
計	約176万件

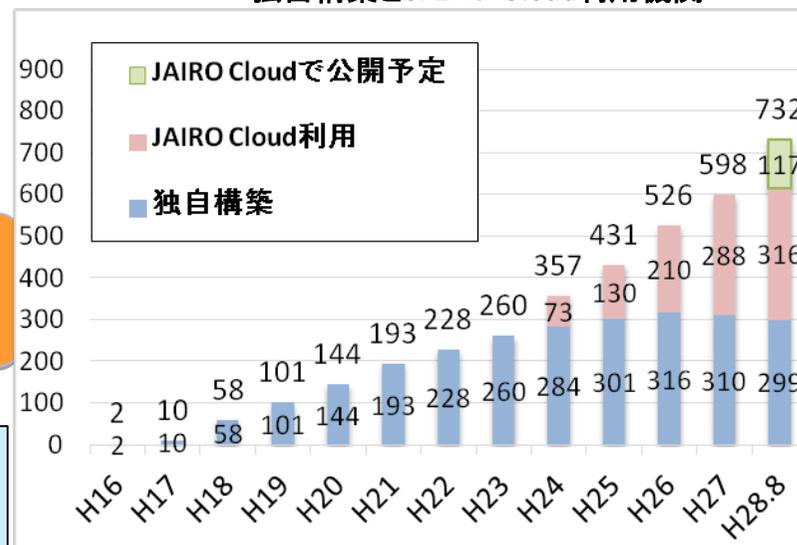
共用リポジトリサービス (JAIRO Cloud)

□ NIIが開発・提供する機関リポジトリのクラウドサービス(H24年度～)

- 独自で機関リポジトリの構築・運用が難しい大学等に、研究成果の収集・保存・発信を容易にする仕組みを提供
- JAIRO Cloudにより
 - ・大学での**システム運用負荷の軽減**により機関リポジトリ数の拡大
 - ・必要な機能を備えたシステムをクラウド上で提供することで**全体の効率化**
 - ・学術情報の**オープンアクセス**を推進



日本の機関リポジトリ構築数
独自構築とJAIRO Cloud利用機関



開始年度	JAIRO Cloud利用機関 内訳					計
	国立	公立	私立	短大	その他	
H24	1	5	50	12	5	73
H25	1	6	46	4	0	57
H26	3	14	49	8	6	80
H27	8	8	46	9	7	78
計	14	34	209	40	19	316

□ 既構築機関からのシステム移行

- 機関リポジトリ既構築機関からの移行受け入れを推進
 - 平成25～26年度 数機関とデータ移行実証実験実施
 - 平成26年5月 筑波大学がJAIRO Cloudへ移行
 - 平成26年11月 移行相談受付開始
- 移行機関(移行済:30機関、移行中:27機関)
 - 主な機関:(移行済)筑波大学、山形大学、近畿大学、国際日本文化研究センター等、(移行中)東北大学、早稲田大学等

□ 今後の運営モデルの検討

- 『共用リポジトリサービス「JAIRO Cloud」の今後の運営モデルと利用料金の徴収(素案)』にて、コミュニティによる運営と料金案を提示
- 上記素案への意見を踏まえて、JAIRO Cloud協議会(仮称)の設立を優先事項とした提案による説明会を開催
 - 平成27年2月～6月 JAIRO Cloudの今後の運用モデルと利用料金に関する説明・懇談会
- 説明・懇談会での意見交換を踏まえ、日本全体の機関リポジトリの新協会設立に向けて、機関リポジトリ推進委員会の下に設立準備会を設置。新協会のあり方について検討し、連携・協力推進会議へ提案・承認を経て、設立へ
 - 平成28年7月27日 **オープンアクセスリポジトリ推進協会設立総会**

KAKEN: 科学研究費助成事業データベース



- 科研費補助金の採択課題・成果情報: 約79万件を一括検索
- 報告書PDFの全文検索が可能(2012.6-)
- 文献リストから論文検索サイト(CiNii等)にリンクあり
- 研究者ごとの情報集約

科研費の成果の可視化を進めるため、「KAKEN」の機能を大幅に向上

1. 他の助成事業との横断検索が可能なシステム設計に変更
2. 研究者の役割、研究課題の状況、報告書の種類等、検索項目を追加
3. 研究課題の状況を可視化するため、「採択」「交付」「完了」等の表示を追加
4. オープンアクセスへの対応を強化(OA論文へのリンク追加等)
5. 海外からの利用を促進するため、英語のインターフェースや検索機能を強化
6. 各機関での採択情報等の利活用を促進するため、APIに対応

学術コミュニティ・社会

科研費研究成果の発信と還元

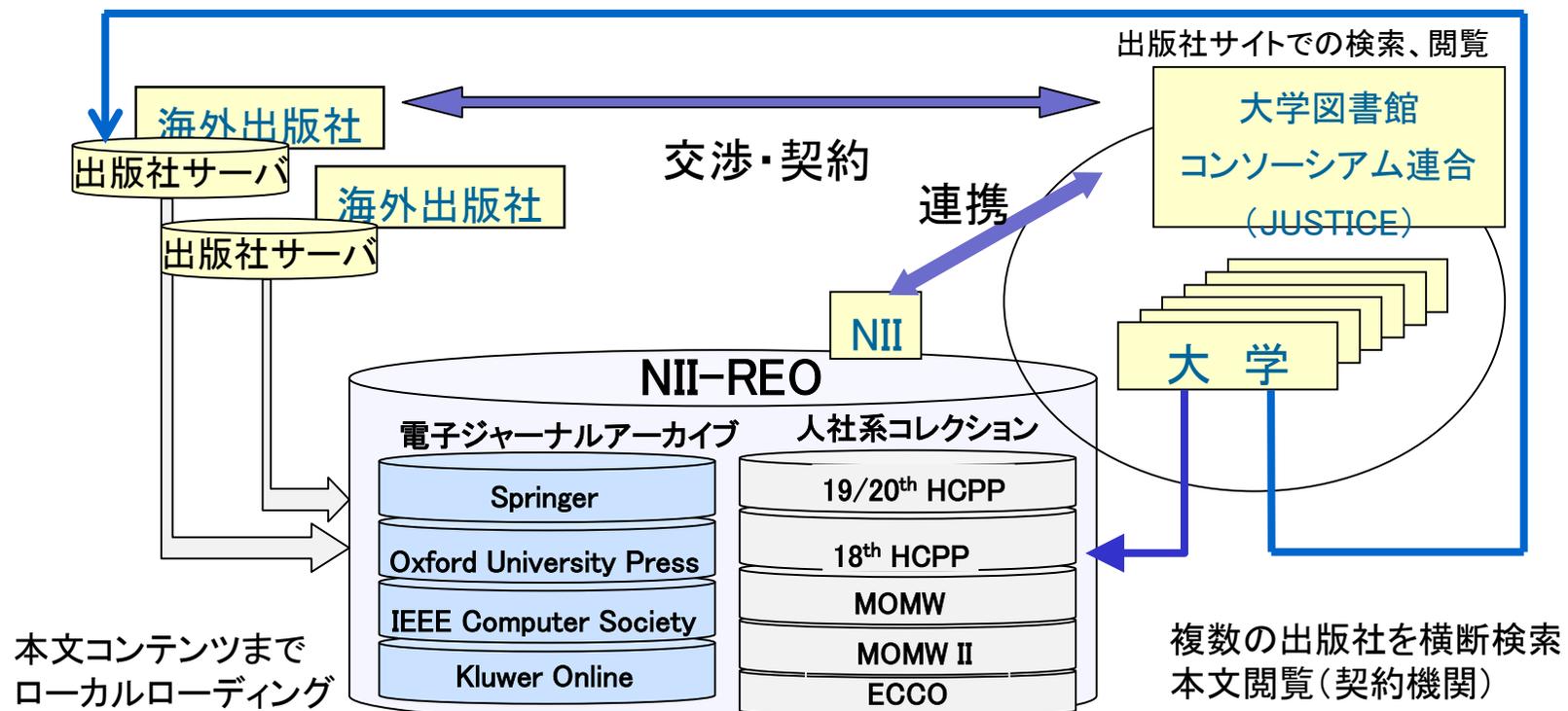


電子コンテンツのアーカイブ

➤ NII-REO (NII電子リソースリポジトリ)の強化

我が国の大学等機関に、安定的・継続的に電子的学術コンテンツを提供する

- 電子ジャーナルバックファイル、人文社会科学系電子コレクションの共同整備
- 共同購入により、図書館は応分の負担で経済的にコンテンツを導入
- SpringerとJUSTICEとの特別包括提案合意に基づき、同社のEJバックファイル(創刊号～1999年)について、国内すべての大学等でアクセスできる環境を構築中。



□SPARC Japan第5期(H28～30年度)の事業方針

図書館等と連携してOAの問題に取り組む

- ▶ 国際的なOAイニシャティブとの協調
 - ・ SPARC、SPARC Europe、SCOAP³、arXiv.org、ORCID、COAR等
- ▶ 学術情報流通にかかわるアドボカシー活動
- ▶ オープンサイエンスへの活動スコープの拡大
 - ・ オープンアクセス、オープンデータ、オープンエデュケーション等の動向把握、大学図書館におけるオープンサイエンスの取組み、研究データ管理等を戦略的に検討
- ▶ オープンアクセスに関する基礎的情報の把握
 - ・ OA誌やIRの利用実態や論文公表実態についての調査的に検討
- ▶ SPARC Japanセミナーの実施
 - ・ 学術情報流通に関する最新の動向を紹介
 - ・ 平成28年度開催予定

回	日時	開催内容
第1回	2016.9.9	オープンアクセスへの道
第2回	2016.10(未定)	データマネジメントとインセンティブ(予定)
第3回	2016.12～2017.1(未定)	研究データの利活用 オープンサイエンス再考(予定)

- arXiv.org
 - 物理学, 数学, コンピュータサイエンス及び関連分野のプレプリント・サーバ。1991年からコーネル大学が運営。
 - NIIは, オープンアクセスを推進する観点から, 日本の窓口として国内大学との連絡調整
- CLOCKSS(Controlled Lots of Copies Keep Stuff Safe)
 - スタンフォード大学による電子ジャーナルの大規模保存プロジェクト。国際的かつ地理的に分散したダークアーカイブを構築し, 版元による提供が不可能になった場合にオープンアクセスで公開。2006年設立。
 - NIIは保存用サーバを提供するとともに, 日本の大学図書館の参加の取りまとめ。
- COAR(Confederation of Open Access Repository)
 - 欧州、アジア、北米の28機関による、国際組織「オープンアクセスリポジトリ連合」として2009年に設立。
 - NIIからボードメンバーが参加。
- ORCID(Open Researcher and Contributor ID)
 - 2010年に、研究者に対して一意な識別子を与え、学術論文の著者IDを管理することを目指して設立された国際的組織。
 - NIIからボードメンバーが参加している
- SCOAP³(Sponsoring Consortium for Open Access Publishing in Particle Physics)
 - スイスのCERN(欧州原子核研究機構)が中心となり, 高エネルギー物理学分野の査読付きジャーナル論文のオープンアクセス化を実現することを目的とした国際連携プロジェクト。数年間の調整を経て2014年にサービスを開始した。
 - NIIは, 大学図書館とともに, 日本の窓口として国内大学との連絡調整
- SPARC(Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition)
 - 学術雑誌の急増と価格高騰に対応するため, 1998年に北米研究図書館協会によって設立。
 - 2006年にNIIのSPARC JapanとMoU締結。

教育研修事業

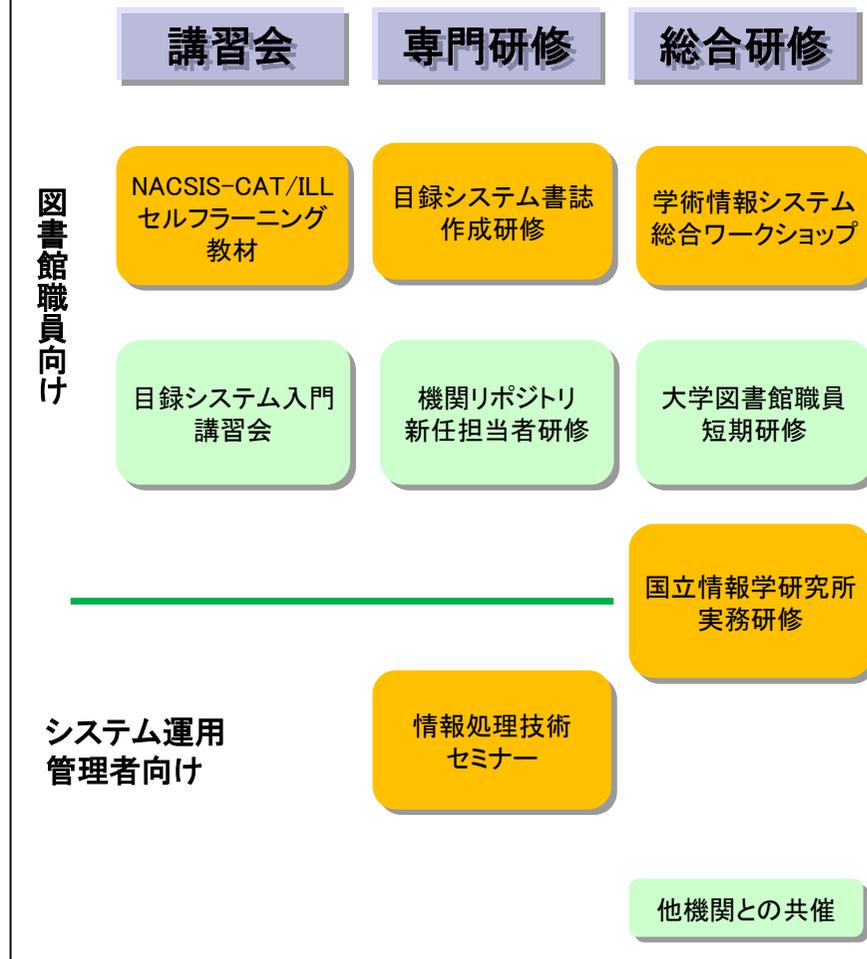
教育研修事業の概要

年間 9種・22回・476名受講

*平成27年度実績

区分	対象	目的
講習会	本研究所の目録所在情報サービスの業務担当者	NACSIS-CAT/ILLの内容や操作・運用方法等の修得
専門研修	大学等における学術研究活動支援に携わる者	学術コンテンツ、情報通信等の最新動向の認知、必要となる専門知識や技術の修得
総合研修	大学等において、図書館、電子計算機およびネットワーク等の業務に専任的に従事する者	高度の学術情報システム環境に対応しうる知識等の修得（実務研修を含む）

国立情報学研究所 講習会・研修体系図



実務研修

- NIIで数ヵ月間のOJT
- 個別に研修テーマを設定
- コンテンツ事業、JUSTICE、ネットワークなど
- 学術情報流通基盤構築の手法・知識・技術を習得

これまでの実績(参考)

受講年度	所属機関	研修テーマ
平成28年度	一橋大学	電子リソース契約・基盤整備に関する内容(検討中)
平成27年度	筑波大学	電子リソースの利用統計の収集・分析とその活用方法に関する調査
平成26年度	新潟大学	電子ジャーナル契約見直しに関するモデルケース作成にむけた調査・検討
平成25年度	広島大学	機関リポジトリ等に集約された多様なデータを、ユーザに提供するための情報検索についての考察
	お茶の水女子大学	学術認証フェデレーション(学認)を用いたシングルサインオンによる全学システム整備
平成24年度	大阪大学	電子情報資源を含む学術情報発見システム構築に向けた調査・検討
	琉球大学	IRDBコンテンツ分析システムを用いデータ分析を通じた機関リポジトリの現状把握
平成23年度	鳴門教育大学	オンライン共同分担目録方式の最適化に向けた大学図書館の観点からの調査・検討
	一橋大学	電子ジャーナルバックファイル等の国レベルでの整備に向けた調査・企画
	大阪大学	電子資料契約実務必携の作成、出版社からの提案書の標準化
	明治大学	電子リソース利用統計のコンソーシアムによる活用に向けた調査・検討

□各サービスの課題

- NACSIS-CAT/ILL: 平成32(2020)年を目指して再構築
- CiNii: サービスのフロントとして集中化・高度化(研究データ対応含む)
- JAIRO Cloud: 運営体制の整備(JPCOARでの共同運営)と高度化(研究データ対応)
- KAKEN: 研究助成成果のオープンアクセスへの対応強化
- REO: コンテンツの充実ー学術情報のセーフティネットの構築

□事業体制

- 人的リソースの不足: 大学等との人事交流の促進、連携・協力体制の一層の強化

□事業予算

- 学術情報基盤(SINET5)の一機能として一体的に予算要求(厳しい財政状況)

□関係機関との連携とデマケ

- 大学図書館との関係: 対等かつ強固な連携・協力関係の構築
- 他の情報関連機関(JST,NDL等)との関係: 連携強化と役割分担の明確化

□学術情報政策との関連

- 科学技術・学術審議会 学術分科会 第8期学術情報部会での検討状況
「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」(H28.2.26)
- オープンサイエンス推進のための研究データ基盤への取組

学術コンテンツ基盤の今後と、 大学図書館との連携・協力

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

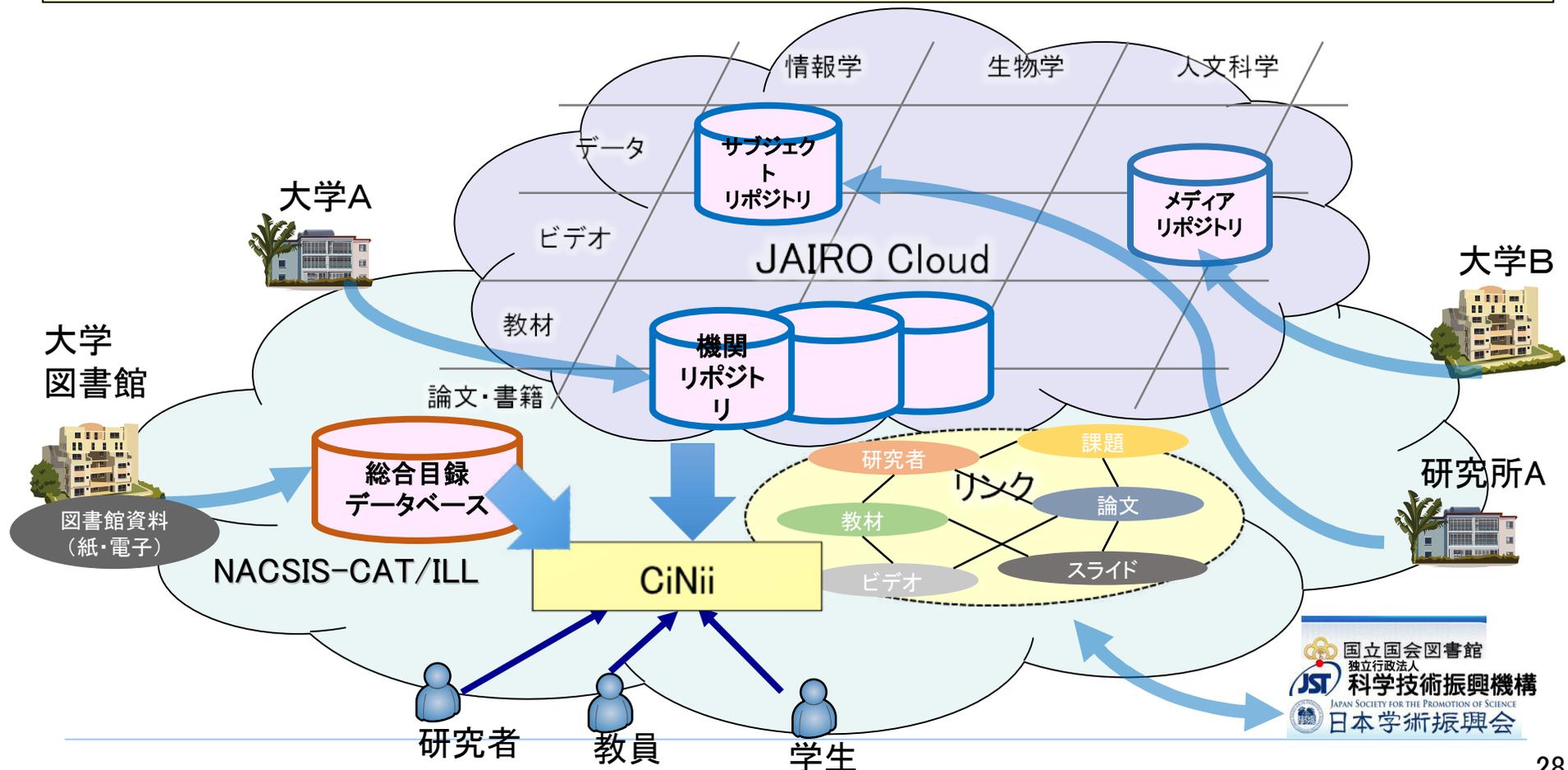
Next-Generation Academic Information Infrastructure

<http://www.nii.ac.jp/content/>

学術コンテンツ基盤の今後に向けて

大学・大学図書館等と連携しながら、多様な学術コンテンツを確保し、整備し、提供する基盤構築に向けた検討・開発を展開

- ◆ JAIRO Cloudの拡充による多様な教育研究成果の収集
- ◆ NACSIS-CAT/ILLの再構築を端緒とした多様な図書館資料へのアクセス環境の整備
- ◆ CiNiiの高度化による多様な学術コンテンツへの統一的アクセス手段の提供



NDL・JSTとの連携

相互に協力協定を締結し、データ連携や人事交流を実施

- 三機関連絡会を毎年開催(平成25年度～)
- 文科省・NII・JSTでNII-JST連携推進会議の開催(平成24年度～)



大学図書館との連携・協力推進のための協定



「大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書」締結(平成22年10月13日、平成28年2月23日改訂)

〔目的〕

「我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図る」

〔連携・協力の推進〕

1. バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保障体制の整備
2. 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
3. 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
4. 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
5. 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
6. その他本目的を達成するために必要な事項

〔組織〕

NIIと国公立大学図書館協力委員会との間に、連携・協力推進会議を設置

大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)

Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources

〔設 立〕 平成23年4月1日

〔目 的〕 電子ジャーナル等の電子リソースに係る契約, 管理, 提供, 保存,
人材育成等を通じて, わが国の学術情報基盤の整備に貢献する

〔主な活動〕

- (1) 出版社等との交渉を通じた電子リソースの購入・利用条件の確定
- (2) 電子ジャーナルのバックファイルや電子コレクション等の拡充
- (3) 電子リソースの管理システムの共同利用
- (4) 電子リソースの長期保存とアクセス保証
- (5) 電子リソースに関わる図書館職員の資質向上
- (6) その他必要な事業

〔会 員〕 大学, 大学共同利用機関, 省庁大学校等の図書館

会員館: 532 (国立: 99 / 公立: 70 / 私立: 360 / その他: 3)

(平成28年7月現在)

〔Webサイト〕 <http://www.nii.ac.jp/content/justice/>

機関リポジトリ推進委員会



- 〔設立〕 平成25年7月発足
- 〔目的〕 「機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築」に関する事項を企画・立案し、活動を推進
- 〔組織〕 国公立大学図書館の職員、NIIの職員、その他有識者により構成
事務局はNII
- 〔主な活動〕 「大学の知の発信システムの構築に向けて」
戦略的重点課題及び当面の行動計画を策定
- ①オープンアクセス方針の策定と展開
 - ②将来の機関リポジトリ基盤の高度化
 - ③コンテンツの充実と活用
 - ④研修・人材養成
- 〔Webサイト〕 <https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/>

オープンアクセスリポジトリ推進協会



- オープンアクセスリポジトリ推進協会 (Japan Consortium for Open Access Repository : JPCOAR)
 - 日本における機関リポジトリを振興・相互支援することを目的とし、国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所の間の連携・協力協定に基づき設立される新しいコミュニティ
 - 当面は「機関リポジトリ推進委員会」がJPCOARの運営委員会を兼ねる

□主な活動内容

- オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善
- 機関リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用
- 機関リポジトリ公開コンテンツのさらなる充実
- 担当者の人材育成のための研修活動
- 国際的な取組みに対する積極的連携

□ 当面のスケジュール

平成28年7月27日	設立総会
平成28年秋	正式参加申込開始
平成28年11月9日	機関リポジトリとオープンアクセスをテーマとしたワークショップの開催(図書館総合展フォーラム)
平成29年3月	第1回年次総会
平成29年4月～	会費徴収開始

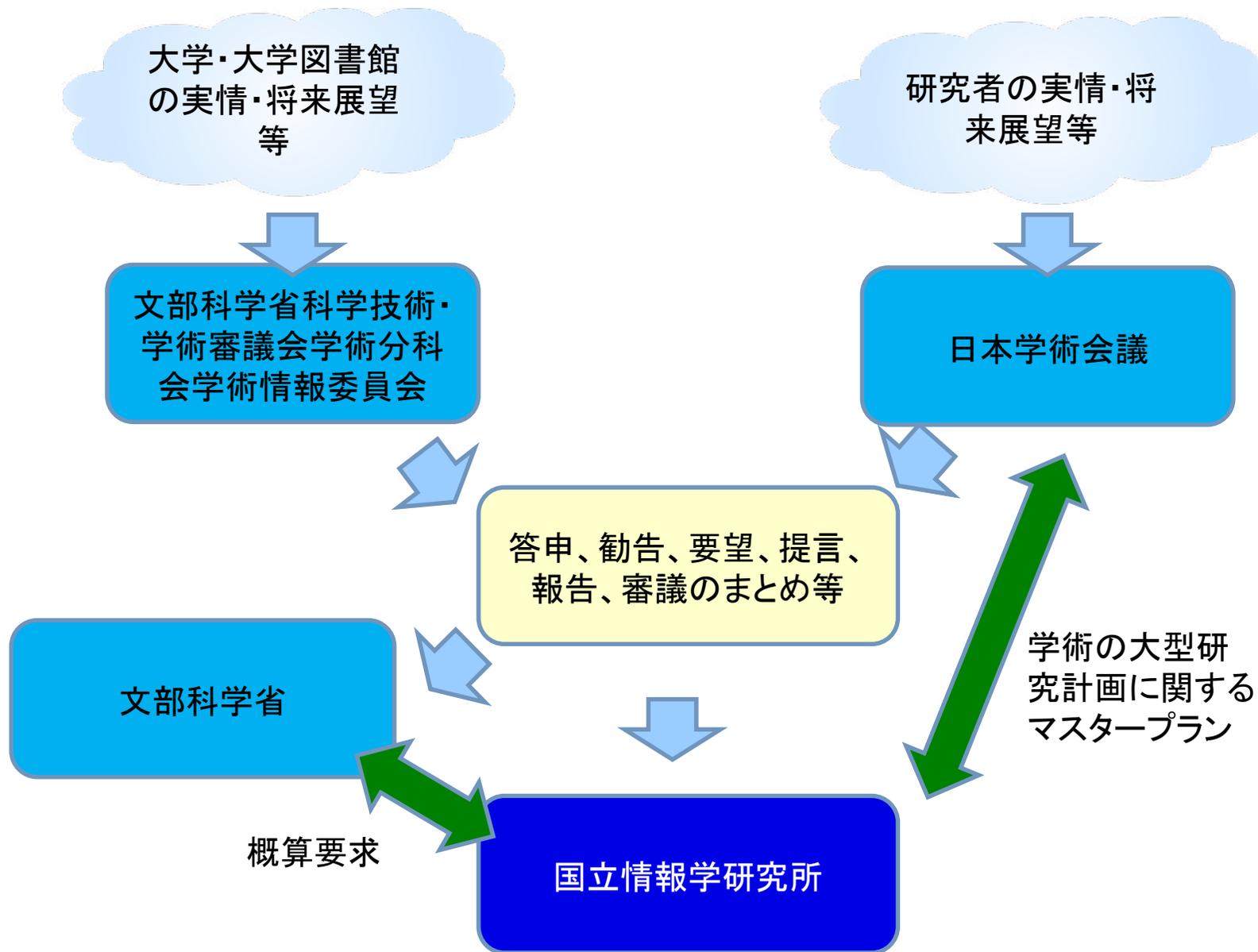
これからの学術情報システム構築検討委員会



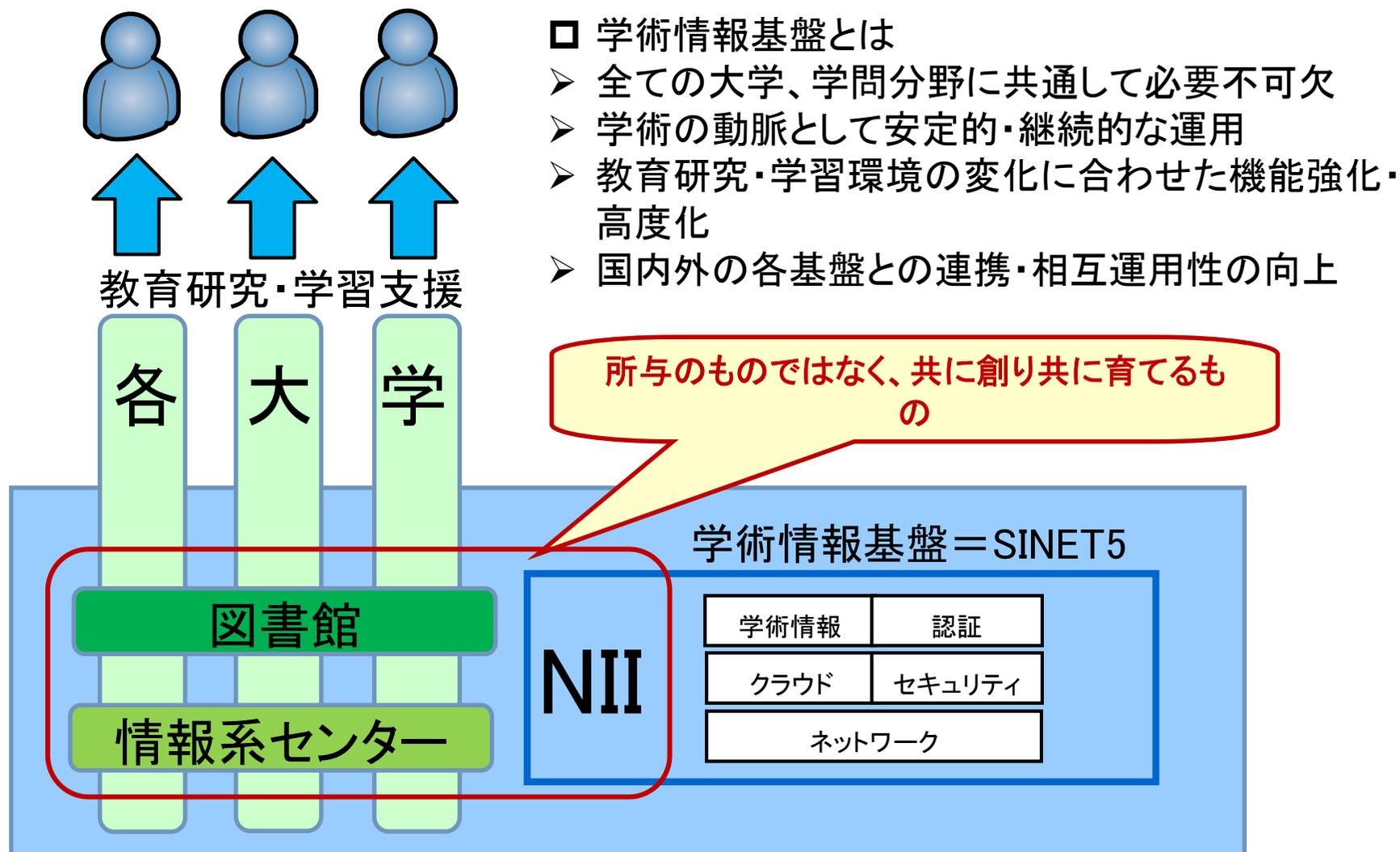
- 〔設立〕 平成24年6月発足
- 〔目的〕 「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進
- 〔組織〕 国公立大学図書館の職員、NIIの職員、その他有識者により構成
事務局はNII
- 〔主な活動〕 学術情報システムの課題を4つに整理
- ①全体像(総合的発見環境、電子的コンテンツ、メタデータ、協力体制)
 - ②電子リソース管理データベース(ERDB)
 - ③目録システム
 - ④デジタイズ
- 〔Webサイト〕 <http://www.nii.ac.jp/content/korekara/>

〔学術雑誌総合目録〕	1大学でのサービスから連携協力サービスへ
〔NACSIS-CAT〕	目録カード作成からオンライン目録へ 単館完結型から共同構築型へ
〔NACSIS-ILL〕	郵便からオンラインへ(依頼・受付情報)
〔コンテンツポータル・CiNii〕	単体の検索から横断・複合検索へ
〔電子図書館サービス〕	紙媒体から電子媒体へ(学協会誌、紀要)
〔NII-REO〕	個別調達・占有から共同調達・共有へ
〔機関リポジトリ〕	蓄積から発信へ、図書館から機関へ
〔学認クラウド〕	所有から利用へ
〔データリポジトリ〕	研究者個人責任体制から機関責任体制へ

学術コンテンツ事業の背景



大学(図書館)にとって学術情報基盤とは



□大学図書館との関係の再定義

NIIの事業に大学図書館が参加・協力するという関係から
平等な立場で、お互いのリソースを持ち寄り、連携・協力
するという関係へ

□連携・協力の場

大学図書館員の活動の場(プラットフォーム)をNIIが提供
情報と課題の共有
共同事業
人材育成のインキュベータ

□連携活動を共に進めましょう

- 連携・協力推進会議の各種委員会活動への参画
 - ・ JUSTICE運営委員・作業部会員（交渉、調査、広報など）
 - ・ JPCOARへの参加、運営委員・作業部会員
（論文OA、研究データ、メタデータ、JC運用、研修など）
 - ・ これからの学術情報システム構築検討委員会委員・作業部会員
（NACSIS-CAT/ILL検討、電子リソースデータ共有など）
- 教育研修事業での連携
 - ・ 研修の講師
 - ・ 共催・会場提供
- 国際連携活動への参加
 - ・ オープンアクセス、機関リポジトリ等の国際会議参加
 - ・ SPARC Japanセミナー企画